

Japaneseman In NY (ニューヨーク生活)



Photo : NY Public Restroom

《ジューシーな生活》

今回はニューヨーク生活だけでなく、アメリカでは当たり前の土足生活の話。依然、新型コロナウイルスが世界中で猛威を奮う状況が続いているが、外国特派員だったのだろうか、他国と比べて日本の感染者数や死者数が少ない理由の1つとして、土足禁止の生活様式が要因だろうと語っている記事を見かけたことがある。科学的には立証できていないらしいが、新型コロナウイルスのパンデミックをきっかけに、アメリカをはじめ、海外で土足禁止の生活様式取り入れる人々が増えて来ているらしい。

今思うと、当時のニューヨーク生活では日本人の中には、アパートや家の中では土足禁止にしている友人・知人も多かった。自分はというと、3畳半くらいのアパートの一室での生活で、玄関など洒落た空間などなく、扉を開けたら部屋だったため、基本土足生活だった。但し、ドアを開めたところで部屋用のサンダルに履き替えて生活していた。絨毯など洒落た敷物もなく、床は年季が入って黒光した板張りだった。

土足生活といえば、当時はマンハッタン内のファーストフード店のトイレをたまに使うことがあったが、日本では考えられないくらいの不衛生さだった。汚い話だが便座に直にオシッコがかけられ、ティッシュが詰まっているような光景は当たり前。詰まって流れなくなったり、溢れてしまうとやる気のなさそうな従業員が始末するような状況だった。便座に座ろうなんて気持ちも勇氣も起こらなかった。そんな光景が日常的でもあったため、日本人としてはそのまま土足で部屋で過ごすという気持ちにはなれなかったのかもしれない。今回、海外での新型コロナウイルスのパンデミックのニュースを見て、土足生活との関わりも多少なりともあるのではと、当時のニューヨークでの生活を思い出しながら想像してしまった…。

また、履き物といえば、ニューヨーク生活を始めてから1年程は黒い合皮のブーツ1足で暮らしていた。当初は極貧だったこともあり、衣食住の中で「住」は月303ドルの家賃で救われ、「食」はウェイターの仕事のまかないなどで確保出来たので特に問題なかったが、「衣」に掛ける余裕などなかった。ニューヨーク生活を始めて暫くの間は、マンハッタン中を歩き回っていたため、半年も経たないうちにブーツの両サイドが薄くなり穴が開いてしまった。穴が開くと革ジャンの裏の目立たない生地を穴の大きさに切って、アロンアルファ的な強力接着剤で補強しながら履き続けていた。

厳しいのは雨の日。毎日履き続けることで強力接着剤のパワーを失い、補強したはずの穴から雨水が染み込んで、毎回ブーツの中がジューシーになるのだった。帰宅するとブーツの中にティッシュを詰め込んで一晩乾かし、また革ジャンの裏生地を切って補強する作業を繰り返した。やがてブーツは継ぎ接ぎだらけになり、ジューシー度合いが限界に来たところで、泣け無しの貯金を叩いて安価なブーツを買うのだった。当時の自分にとっては、現在のコロナ禍のマスク生活以上に、雨の日のジューシーな生活の方が憂鬱だったかもしれない。

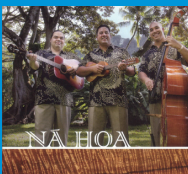
Hawaii Walker's (ハワイの歩き方)

Mount Tantalus

タンタラスの丘

今回はハワイ・ホノルル市内を一望できる人気の絶景スポットとして有名な「タンタラスの丘」。オアフ島の北東から南東に延びるコオラウ火山群の一番南東端にある噴石丘で、海拔は614メートル。名称はギリシャ神話のタンタロスに由来している。ダイヤモンドヘッドと並ぶ絶景スポットとして、特に“ゴールドイルミネーション”と称される夜景で人気。また、格好のハイキング地としてホノルル市民に親しまれている。丘の頂上はプウ・ウアラカア州立公園になっており、休憩所やトイレ、展望台もある。

《ハワイな一枚》



ナー・ホア

ナー・ホア

Indys [Import CD]

「ナ・ホク・ハノハノ・アワード」で4部門受賞したウクレレ、ギター、ウッドベース編成のハワイアン・トリオ＝ナー・ホアのファースト・アルバム。10曲収録。